midorinodam.jp

NPO法人
緑のダム
北相模

July 2014 No.376-377

７月号の１枚：間伐材仮置き場小屋づくりは作業順調

［巻頭言］法人第13期・通常総会、そして考えること

森林保全・再生「活動」を森林保全・再生「運動」にステップアップする

任意活動を5年、法人化して12年経過、計17年目の活動に入る。昨年の第12期・年次総会で「これから15目年活動目標」を採択した。「森林保全・再生活動」を「森林保全・再生運動」にステップアップする。即ち、

１．若者たちによる森つくり（後継者育成）
２．「森林・林業の復権・改革（流域サプライチェーンモデル構築）」に繋ぐである。

わが国は、経済大国と言われている。然し、森林率68％（世界第2位）を持ちながら「森林後進国」と言われている。何故か。華やかな2次、3次産業に目が行って地味な一次産業がおろそかになっている。

2については、一介の森林NPOに何程の事が出来る訳でもないが、「民＋産+官＋学・・・全ての人々との協働」と少しでも可能性のある事に取り組んでみる。

森林林業・農業・水産業、一次産業は、国の存亡の根幹を成す産業である。その一次産業が衰退すればわが国は、自らの生命を守る事のできない国になる。無理に金持ちにならなくとも、一次産業の充実こそが、本当の国力なのだ。国にお金があるからと言って「衣・食・住」を外国に頼ってしまっていては、万一の時が凌げない。特に、「食、食べることは、生きる事」。雨水が樹木を育て沃野を潤し、沃野が更に栄養分の高い水を海に流して，海藻・魚介類を育てる。「森林」が雨水を受けてくれねば生命の全てが失われる。

石村　黄仁（本会、代表理事）

今月の定例活動

2013.07

7月 6日（第一日曜日）：
小原本陣の森/森林整備、担い手育成、技術向上。
持続的森林経営：弁当持参。参加費：４００円
7月20日（第三日曜日）：
相模湖・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動。
主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費：４００円

FSC
www.fsc.org
FSC® C006376
責任ある森林管理のマーク

[定例活動]小原本陣の森

6月1日（第一日曜日）

季節は六月。本格的な夏を迎える前となり、山の木々の緑も色濃くなってまいりました。

今月の小原での活動には、学内では味わえない自然を求め、麻布大学、千葉大学、東京農業大学の学生が10余名参加しました。余談ではありますが、近頃は麻布大学の学生だけではなく、様々な大学から学生が集まり、まさに「学生団体」といった体をなしています。

今回は、8月11、12日に開催される予定の相模原市立環境情報センター主催「夏休みキャンプ」の準備のため、林地残材の整理、掛かり木の処理、川沿いの整備を行いました。始めは普段どおりに作業を効率よく行うために活動をしていましたが、作業途中で緑のダムの川田さん、永瀬さんの御両名にご相談をした際に「普段、都市の中で生活をしている子どもたちに、この山に訪れた際に何を感じ取ってもらいたいと思うか」との言葉をいただき、考えを改めました。

その後は、残材を整理する際にも、ただ積み上げる、まとめるだけではなく、適度に林内にばら撒き、ありのままの自然を残しつつ、安全面に配慮した配置になるよう意識をしました。川沿いの道も、特別な道具を使うわけではなく、その場にある石を積み上げて階段を作成しました。始めは何をすればよいかと思案しましたが、自然物である石をどのように積み上げれば頑丈な階段を作れるか、ということを考えていくうちに石の魅力に気付かされる等、新たな発見がありました。

都合四年間森に入っていると、ついつい森林の魅力を分かった気になってしまいますが、都市部にある緑地、公園とは一線を画すものである「森林」。その魅力を最大限に感じ取ってもらうには、どういった整備をすればいいのか……非常に考えさせられる今月の活動でした。木材の循環を目指す森林整備もあれば、来た人に安らぎをもたらすための森林整備もある。森も人も多種多様であることを常に意識して、今後も視野を広く持った森林保全活動を続けていきたいと思います。

淺野　雅樹（Forest Nova）

[定例活動]相模湖嵐山の森

6月15日（第三日曜日）

梅雨の晴れ間の日曜日。今日は当会にとって特別な日、嵐山の山主・鈴木史比古さんのお父様である故・鈴木重彦さんのご命日なのである。私は晩年に少しお会いした程度だが、この方の存在なくして緑のダムの活動はあり得なかったといっても過言ではない。朝礼時、石村さんからの申し出により皆しばし黙祷を捧げる。

高井戸中は期末試験期間のためお休み。そのため参加者はいつもより少なめの５２名。だが、今回は特別に森林インストラクター神奈川会（ＪＦＩＫ）から理事である菅原さん、中村さん、田中さんの３名の参加があった。当会との連携を測るための視察である。川崎・東高根森林公園で活動している「草笛ピートルズ」の石川さん、原田さんのお二人も昼休みにオオムラサキツツジの葉を使っての草笛演奏を披露してくださる予定である。

午前中、私は高井戸中・宮村先生、麻布大・原田先生たちと一緒に植生調査。高井戸中ＯＢ、草笛ピートルズ、望星高校というなんとも変わったチーム編成。そこにＪＦＩＫ理事３名の強力な助っ人陣も加わる。この調査は来るべきFSC®認証更新のための準備作業である。東海自然歩道沿いやノバの森、雑木林、モマ工房付近の森など調査区画が多いため、まる１日がかりの仕事となってしまった。

森林整備班は木林士によって伐採された材を沢の縁まで降ろす。お花畑班は草刈り、剪定、ラズベリーの

植え付け。フォレストノバは初めて嵐山に来たメンバーのための森林案内と森からモマハウス横までの材降ろし。１０人で８本を運んだ模様で、これらを井桁状に積み上げ自然乾燥させる予定らしい。

昼休みにはいよいよ「草笛ピートルズ」の演奏会だ。オオムラサキツツジの葉を使い「四季の歌」「夏の思い出」「ふるさと」等の懐かしいメロディーが素朴に奏でられる。その後は参加者のための草笛講習会。こちらでピーピー、あちらでピーピー、音は何とか鳴るものメロディーまではほど遠い。肺の力が結構要る。力んだあまり目の前がくらくらしたのは私だけではないだろう。このところ森での演奏が続くが、これはいい。音楽はひとの心を癒してくれる。森と同じように。

ＪＦＩＫ会員、森林セラピストでもある田中さんの楽しくためになるリラクゼーション体操がさらに場を盛り上げたあとは午後の活動に。作業はいつものように整然と進む。ノバは径路の補修作業に加え、森につくられた径路の天辺に登り作業地の再確認を行った。生命の森宣言東京は今後、自分たちの森をどのように管理していくかを再検討。

ところで、森から運びだした材の仮置き場建設はどうなったの？　いつできあがるの？ご心配なく。本日は基礎ブロックの位置出し・固定という重要かつ精密な作業を１０名ほどの協力で完了した。あとは柱を刻んで建てるのみとは体験学校長・斎藤さんの弁。

特別の日であった今日。これまでたいした事故もなく無事に活動できたのも重彦さん、山の神様のお蔭なのかも知れない。この後の総会も懇親会も大いに盛り上がった次第である。

内野　郁夫（本会、理事）

[報告1]
報告、第13期　通常総会

前期概括：

昨年・第12期は、当会発足の16年目に当たり、「森林活動→運動」に大きく舵を切った。即ち、従来の森林整備から「森林・林業の復権」と言う市民運動NPOにしては大きすぎる課題を採択した。幸いにして、酒井秀夫先生（東京大学大学院森林利用学研究室教授、当会会員）が「相模川流域サプライチェーンモデルつくり」を提案下さった。これを手掛かりに、いろんなことを考え実行に移し始めた。幸運なことに麻布大学学長・政岡俊夫氏が「学術交流協定」を締結して後押しをして下さった。だが、決算は△579,100円。（累積4,221,303円の黒字）。事業の転換は困難な道が続く。

今期計画：

[1]若者の森つくり（後継者育成）　は、理念、事業三原則をベースに各班（なみすけの森づくりプロジェクト、望星の森、ForestNovaの森、生命の森宣言他）毎の活動方針を明確にした。

[2]森林の経済性創出を目指す「森林・林業の復権、相模川サプライチェーンモデルつくり」としては、流域・地域材の経済性創出に取り組む。

(1)流域について、「上流の森林生産地～中流の加工・流通地～下流の建築消費地」を繋ぎ、経済（お金）を森林と消費地に循環させる仕組みつくり。

(2)国産材普及を戦略とする「国木会」との協働。
この活動が2本柱となる。

但し、NPOの一番の弱点は収入面が不安定で、更なる茨の道が続くのを覚悟している。

石村　黄仁（本会、代表理事）

総会では、各作業班から今期までの報告と来期の活動について報告がありました。

ネット授業との連携を模索する望星高校佐藤教諭（右上）、関連事業となる3Dスキャナーの報告をするForestinfoの小林会員（右下）、ArcGISというソフトでGPSデータを付加した写真公開について説明する宮村理事（左下）

[報告2]
ForestNova新代表挨拶

梅雨の晴れ間にのぞく青空が目にまぶしく、夏らしさを感じる今日この頃です。

この度、六月から学生団体ForestNova☆の代表が麻布大学四年の淺野雅樹から麻布大学三年の私、山田和彦に交代しました。

ForestNova☆は「森と人との共助共生社会を目指す」という理念のもと活動していて、メンバーは各々の考える理念達成のため、考え、行動しています。しかし、思いが強いあまり、時には意見がぶつかることもあります。ですが、そんな時はお互いに納得が行くまで話し合い、森に対する考えを深め合うことができます。また、森林整備ができるフィールドを持たせてもらっている。自分たちで森を管理することができる。私はこんな団体にいること、代表になれたことを誇りに思います。

私がForestNova☆の代表になってやりたいことは、ずばり言うと「定例活動の充実」です。理念達成のためには、ForestNova☆のような団体に人が関わることが一番大切だと思っています。ForestNova☆は現在、相模原市主催の環境まつりやNHK主催のECOパークなどの環境系イベントに出展し、木工体験教室を開いたり、我が団体の活動の紹介を通し、森の現状、森に対する活動が必要だと啓発しています。しかし一番森林保全の大切さを訴えることができるのは、実際に森に来て、そこで「体験」してもらうことだと、森に来てみないと伝わらない事があると思っています。イベントに木を持ち込んで木工体験をしてもらっても、間伐の様子を見てもらっても、そこで伝わることと、森に実際に来てもらって体験してもらうのとは、体験してみないと伝わらないことが多いと思います。ですが気軽に行けないのも森です。なので、我が団体の定例活動をより魅力あるものにし、森に入って整備すること、森に関わり続けていくことの大事さを定例活動で伝えられるようにしていきます。

現在のForestNova☆はメンバーの森林整備の知識や技術が不足しています。ですが、ForestNova☆はまずは森林整備の知識を先輩からしっかりと引き継ぎ、また常にどうすれば活動が良くなるか、人に森の良さ、森林整備の良さが伝わるかを考え、行動していきます。これからもForestNova☆をよろしくお願い致します。

山田和彦（Forest Nova）

[報告3]　上智大学ASFに参加しました

5月25日に行われた上智大学オールソフィアンズフェスティバルに今年も本会の積み木で参加しました。今年は例年通りのアンコールワットだけでなく、同大の聖堂の一つであるクルトゥルハイム（中上）にも挑戦しました。実はこのクルトゥルハイムはASFに参加し始めたころに一度挑戦したことがありましたが、まだ「積み木練度」が低く断念した経緯がありました。しかし、アンコールワットだけでなく、東京駅、はやぶさ、小倉橋、国会議事堂と着実に経験を重ねてきた今年はぜひ挑戦しようと校内で試作を始めました。特に屋根部分が特徴的な同建築を再現すべく、屋根部分は別チームを編成し、試作を行いました。試作期間は短かったのですが、昼休みなども活用し少しずつ完成度をあげていきました（下２枚）。

当日はアンコールワットを初めてつくる１年生チームに卒業生がつき、クルトゥルハイムに取りかかる精鋭の２年生チームで作業を開始しました。場所もクルトゥルハイム正面という絶好のロケーションをご用意いただき、中学生たちの気合いもみなぎるものがありました。14時完成という少々無茶な時間設定にも関わらず、昼食を交代でとりながら、作業は進んでいきました。今回は「中身」もズルせず井の字型でくみ上げ（右上）、積み木のみでの完成を目指しました。単純なようでここが難しく、作りが雑だと屋根がきれいにのらなかったり、壁面と連結しながら壁の強度を維持したりと工夫が必要な部分です。そんなことを失敗しては直し、気に入らないと作り直し、時にはうっかり崩し、を繰り返し組み上がっていきます。ある程度組み上がったころ、大問題が発生。さすがにクルトゥルハイムとアンコールワット同時制作では積み木が足りなくなってきたのです。試作段階での読みでは充分足りるはずだったのですが、、、最後の試練は減らしてもあまり見栄えが変わらないところを崩す作戦を投入し、なんとか２つの建造物を完成させることができました。今回は苦労も多く生徒の達成感もいつも以上に感じることができたようです。

宮村　連理（本会、理事）

[報告4]
さがみはら環境まつり
写真でご紹介

６月２９日（日）にボーノ相模大野　ユニコムプラザにて行われた、さがみはら環境まつりに、「さがみ湖　森・モノづくり研究所（写真左）、JFIK全国森林インストラクター神奈川会（写真中）、ForestNovaと出展しました。写真でご紹介します。

[事務局からの
お知らせ、お願い]

22世紀やま・もり再生ネット助成金が決定

　今年度、NPO法人22世紀やま・もり再生ネットさまからの助成金が決定しました。この助成金では、中学生から大学生までの森づくり活動の支援を中心に、ウェブ上での様々な形での情報発信も行います。例えば、GoogleMap上での360°全天写真の公開、YouTubeを用いての定例活動等の紹介、また、今年度はGISを用いた森林管理についても取り組みます。ご支援ありがとうございます。

会員コーナー

●会員のコーナーでは、皆さんの自由なご意見やご提案をお願いいたします。下記の専用メールアドレスか、事務局FAXまでご連絡ください。また、こちらのコーナーへの投稿や写真の提供もお待ちしております。

●通帳からですと振り込み手数料が掛かりません。
　領収書はゆうちょ銀行等の発行する領収書をご利用下さい。
　また、新規入会の方は、住所、電話番号を事務局にお知らせください。
　振込の際は局の振込用紙に記号、番号を記載し、振込者の情報を記入して、機械操作にてお振り込みいただけると助かります。

世田谷郵便局　（記号）10000-（番号）65791651

●会へのご支援いただいた方です。
会員のみなさま、会へのご支援ありがとうございます。（掲載は振込順になります）

正会員　山本　忠順、原田　公、 兼松まゆみ
賛助会員　(株)月尾研究機構

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食；自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、
ボチボチと・・。
そして、沢山の参加で森は、良くなる。
（台風の日は勉強会開催。１６年間、
一日も休まず“継続は力”。）

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局 Tel&Fax　03－3411－1636
ＵＲＬ：http//www.midorinodam.jp
E-mail：info●midorinodam.jp　●を＠に変更して使用してください
corner●midorinodam.jp　会員コーナー専用アドレス

協働団体：セブン-イレブン記念財団、相模原市（市民協働推進課）、
東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
支援団体：WWF JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、
神奈川県建具協同組合、JFEメカニカル、東急コミュニティ、
マルモ出版